はるかな尾瀬

ー目　次ー

02　特集
　尾瀬のひみつを探しに行こう
04　リレーエッセイ
　尾瀬ヶ原の底に眠る小さな化石
06　現地情報
10　認定ガイドがススメる とっておきの尾瀬
　①多くの人に尾瀬の魅力を伝えたい
　②自分のスキルを向上させることもガイドの仕事
　③尾瀬の水で入れたコーヒーを飲みながら、ゆっくり流れる時間を味わう
　④尾瀬の声を聞く
12　尾瀬から学ぶスローライフ
　内海さんの思いをつなぐ
13　エッセイ尾瀬好日
　①今シーズンの尾瀬を振り返って
　②自然豊かで不思議にあふれた尾瀬
　③郷土の自然とともに
16　尾瀬ボランティア情報
17　TOPIX
18　尾瀬保護財団からのお知らせ

2012.1　vol.17
（財）尾瀬保護財団

上田代から燧ヶ岳の朝焼けを望む

「尾瀬を知るフィールド講座」レポート

特集 尾瀬のひみつを探しに行こう

尾瀬の隠された魅力発見や、新しい尾瀬の利用方法を学ぶ「尾瀬を知るフィールド講座」も、おかげさまで2年目が終了しました。

ユニークなテーマでどんな事をやるんだろう？　という方も多かったと思いますが、今シーズンの内容を担当スタッフのコメントを交えて紹介します。

「尾瀬ヶ原ネイチャースキー・ハイキング①・②」
（4月30日～5月1日、5月4日～5日）

雪原となった春の尾瀬ヶ原をネイチャースキーで歩きました。普段は歩くことのできない奥地へと入り、巨樹の森や動物の気配を参加したみなさんと探しました。

ゲレンデスキーなんかじゃ味わえない楽しさ！雪の上だから普段は行けないあんな場所にも行けちゃいます　（友松）

「尾瀬の野鳥ウォッチング」
（7月2日～3日）

バードウォッチングに最適な初夏の尾瀬沼で、日本に飛来する夏鳥たちを観察しながら、尾瀬と、その周りの環境とのつながりを考えました。

講師が身近な話題や尾瀬の伝説から野鳥のことを解説してゆくので、思わず引き込まれます　（安類）

「至仏山の自然を科学する」
（7月9日～10日）

登山道の付け替えが検討されている至仏山。その環境調査から明らかになった自然のしくみを、登山しながら徹底解剖しました。登っただけでは分からない至仏山の貴重さにせまりました。

講師の話は目からウロコなものばかり。至仏山の見方が変わります！　（安類）

ンのご参加

こま～す♪

参加者のこえ

●家族だけでは見逃していた事が、講座でよく判り楽しかった。

講座のラインナップは、財団スタッフが尾瀬の仕事を通じて見つけた発見や楽しさをそのままプログラム化したものがほとんどです。「趣味でやってませんか？」というご質問をいただく事もありますが、スタッフも尾瀬を楽しむ視点を忘れずにマジメに運営しています。

●鉱山や岩石の講座なので硬い内容だと思っていたら、柔らかかった。

●実際に体験できた事が良かった。

隠された尾瀬の魅力を感じ取ってもらうためにも、講座の半分は実際にフィールドに出て、「本物を見ながら解説」「本物を手にとってもらいながら体験」することで、わかりやすさをコンセプトにしています。

●フン分析を通じて、動物が季節によっていろいろなものを食べていることが分かりました。

フンから分かることは本当に多いですよね。あっと驚く物が出てくることもあります。

●歴史的な場所を見たり、思いめぐらす事で、尾瀬の別の一面を見た。

尾瀬は人間とのかかわりが深い場所でもあります。歴史・人文系の講座も今後増やしたいと思っています。

「尾瀬アニマルウォッチング」(8月27日～28日)

夕暮れ時から朝方の、尾瀬ヶ原で気配の濃くなる野生動物たちの観察会を行いました。また、尾瀬で取り組まれている、ツキノワグマ保護管理を体験していただきました。

普段はなかなか出会えない動物たちが生活している証拠を探しました。実際に大型動物を見られた人もいましたよ！（原田）

あたり前のように尾瀬ヶ原にある、池とうのヒミツが分かります。池とうはみんな同じではないんですよ！！（遠藤）

「池塘の不思議をさぐる」(8月6日～7日)

尾瀬の風景に欠かせない池塘。尾瀬ヶ原に約1800個あるという池塘を、水質分析を通してパターン化してみました。

今シーズンは尾瀬ヶ原の洪水・水没があった事で、池塘の水が濁った場所が見つかり、講座を通して貴重な発見がありました。

「尾瀬地学入門～戸倉沢層・根羽沢編～」(9月17日～18日)

大清水から戸倉一帯は地学的にも非常に貴重な地域です。日本随一の金銀鉱床露頭のある根羽沢鉱山(左)、恐竜時代の化石・テトリシジミ(中)、オフィオライト(右)を探しに行きました。

裏尾瀬へようこそ！　冒険の先には金銀財宝？と地球の秘密が…。これであなたも（ほぼ）インディジョーンズ！！（磯貝）

「尾瀬湿原復元45年の歩み」(10月1日～2日)

45年にもわたる尾瀬の湿原復元の歴史と、最近の取組みについて、作業に携わってきたスタッフが紹介しました。

尾瀬関係者の地道な努力でここまで回復した湿原！そういう目線で今後湿原を見て下さい！来年も講座を行う予定で～す（樹澤）

～ 2011講座の実施状況 ～

- 参加者：のべ168名
- 男女比：男64%、女36%
- 平均年齢：50歳
- 最高齢：76歳、最年少：8歳

今シーズンも講座にご参加いただき、ありがとうございました。

2012シーズンの講座は次号(2012年3月号)でお知らせします。

●これまで「大きなみずたまり」としか認識していなかった池塘が、これほど異なっているとは思わなかった。

同じように見えている池塘が、分析することで様々な種類があることは意外と知られていません。今年の洪水をきっかけに新たな知見も得られましたし、「池塘の不思議をさぐる」講座は、新たな展開があるかもしれません。こうご期待！

●自然の復元の大変さを知りました。次回は自分でも気をつけて歩きます。

講座を通じて尾瀬の大切さを知っていただき、自分で自然に配慮した行動ができると良いですよね。これぞ真の尾瀬ファン！

●ミズゴケの存在が大きくなりました。

こちらが想像していなかった新たな発見があったようですね。スタッフも日々向上しなければと思います。

リレーエッセイ

「尾瀬ヶ原の底に眠る小さな化石」

村上　哲生

高校の生物の教科書を開いてみると、湿生遷移の図を見ることができるはずだ。用語は忘れていても、深い湖が浅い沼となり、やがては湿原になる過程を描いた印象深い模式図だと言えば思い出していただけるだろうか。しかし、尾瀬ヶ原は、そのような単純なでき方をしたのではない。１９５０年代の第一次調査から、ずっと尾瀬の研究に携わってこられた東京大学の阪口豊先生は、古い時代の湖が一旦干上がり、そこを流れる川から溢れた水が作り上げた湿地が、現在の尾瀬ヶ原の起源であるとの説を提案された。

私たち、信州大学の林秀剛先生を中心としたグループは、１９９０年代の第三次調査の際、尾瀬ヶ原の形成過程を明らかにすることを目的の一つとした。尾瀬ヶ原は、長い年月をかけて、泥炭、つまり植物の遺骸が、時代順に積み重なってできあがったものだ。深いところには湿原が誕生した頃の堆積物が残っている。私たちは、尾瀬ヶ原の池溏に穴を開け、古い時代に積もった泥を取り出し、その中に含まれる化石を探すことにした。長いパイプを打ち込み、引き抜くという力仕事だ。化石といっても、目に見える大きさのものが目的ではない。顕微鏡でしか見えない、１／10ｍｍから１／100ｍｍサイズの藻類や原生動物のそれだ。微小生物には、腐りにくいガラス質の殻を持つものがいる。都合の良いことには、それらの生物は、環境に応じて生息する種類が違っている。化石の種類組成を調べることにより、水が多かったのか乾いていたのか、流れる水か止まった水か、場合によっては、塩分やｐＨ、水の汚れの程度も知ることができるのだ。

中田代の池溏から取り出された６ｍの長さのパイプの上部には、茶色の泥炭が詰まっていた。植物の遺骸の中に、きらりと光る甲虫の鞘翅のかけらも見られる。底には、灰色の砂が入っていた。これが目指す尾瀬ヶ原誕生の頃の堆積物だ。顕微鏡でのぞいてみると、ガラス質の殻を持つ藻類の一種、珪藻類がたくさん含まれていた（図１）。興味深いことは、それらの珪藻が、現在の尾瀬ヶ原を流れる川上川や、湿原の周辺の山から流れ出す川から採集した礫や水草に付いて生活する種類と類似した組成であることだ。湖に見られるようなプランクトン生活（浮遊生活）をするような種類は一切見つからなかった。尾瀬ヶ原に泥炭が溜まりだす以前は、川であったと考えることが妥当だろう。私たちは、上田代や中田代の湿原にもパイプを打ち込み、泥炭層の底の砂を採集し、その中に、川起源の珪藻を見つけ出した。

では、もっと昔に、川ができる前に干上がった湖はどうなったのか。湖の堆積物のほとんどは、新しくできた川に削られて残っていないが、その一部は、尾瀬ヶ原から流れ出す只見川の崖に露出しているらしい。これも、阪口先生の説だ。私たちは、尾瀬ヶ原の西の端の山ノ鼻の宿舎から、東の只見川まで、一日がかりで往復し、目当ての崖の土を採集してきた。雨の日で、滑る木道と只見川の急崖を下りるのに難渋した。今度の試料も予想通りの結果だった。付着生活をする珪藻に混じって、たくさんの浮遊生活の珪藻が見つかった（図２）。写真の中の円盤型、茶筒型（横から見ると長方形に見える）の種類がそれだ。これらの種類は、今でも尾瀬沼で見ることができる。この崖の土は、湖であった時代に堆

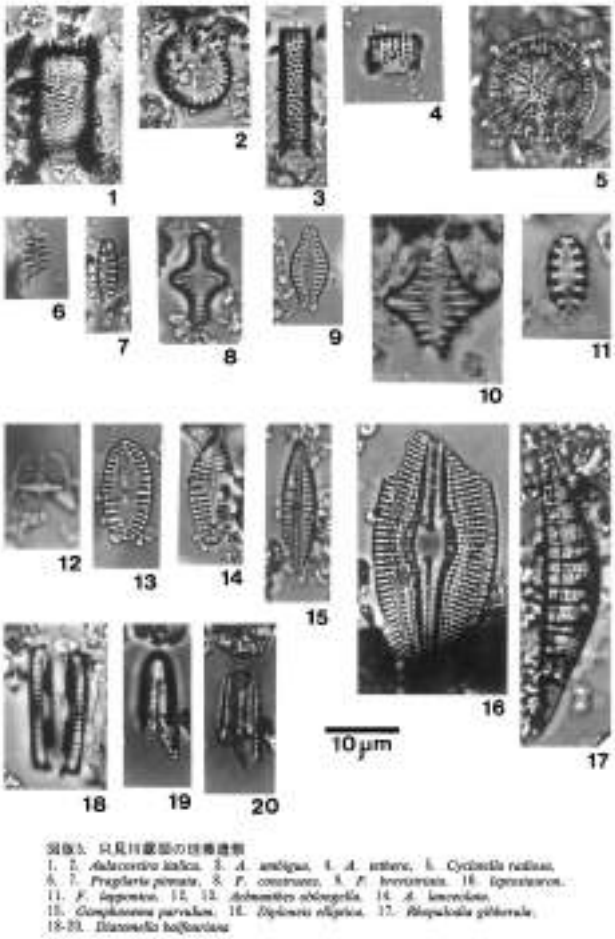
積し、その後只見川に削られ、今のような深い谷になったのだ。

あらかじめ予想できたこととはいえ、尾瀬ヶ原の成り立ちの説の正しさを、別の分野の研究で裏付けたのは重要なことだと思う。これだから、様々な専門の研究者が、同じ現場で仕事をすることが必要なのだ。

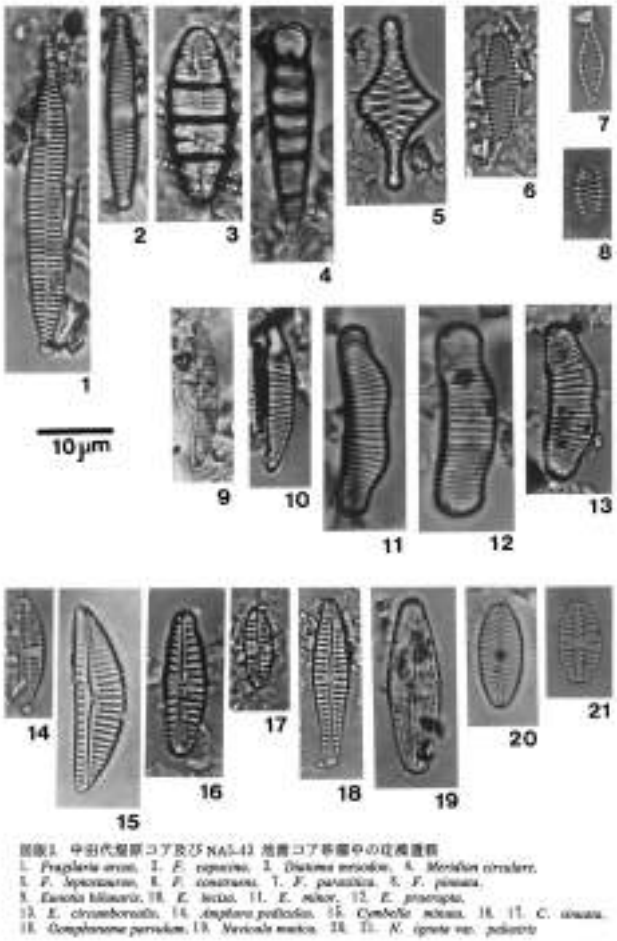
第三次調査の後、私は、尾瀬ヶ原などの湿地から離れ、全国のダムや堰の環境影響と河川環境保全の課題に取り組むことになった。尾瀬と同じく、水と藻類が関わる仕事であったが、違った難しさのある問題だった。仕事の相棒は、戦後、尾瀬ヶ原の保全をきっかけとして結成された(財)日本自然保護協会だった。これも尾瀬が取り持った縁だったのだろうか。

筆者紹介
村上　哲生（むらかみ　てつお）
名古屋女子大学家政学部教授
専門は陸水学
著書は「川と湖を見る・知る・探る—陸水学入門（共著）」など

前号の林秀剛氏（NPO法人信州ツキノワグマ研究会理事）よりリレーしました。



▲図2. 只見川の崖土の中の珪藻遺骸
付着型の藻類とともに、浮遊生活をする藻類も見られる。
最上段の円盤型、茶筒型の種類がその代表的な例である。



▲図1. 中田代湿原の底の砂層に見られた珪藻遺骸
現在の尾瀬ヶ原を流れる川で見られる種類と共通している。

現地情報

原をわたる風だより

山の鼻ビジターセンターより

天然カラマツ倒れる

鳩待峠から山ノ鼻方面に登山道を下がって行くと、山の川上川橋手前に、針葉樹の大木が数本見られます。

日本では標高の高い山間部でカラマツが広範囲に植林されていますので、珍しくはありませんが、尾瀬の天然カラマツは、直径約1～1・5mあり、樹高は約25～35mと大木です。下界では、なかなか見られないと思います。

その天然カラマツの1本が、川上川沿いに立っていて、ここ数年の洪水によって根本が洗堀されて徐々に傾いていました。そして7月5日の朝、天然カラマツが倒れているのをビジターセンター職員が発見しました。

7月4日の晩から5日の未明にかけて倒れたものと思われます。

尾瀬の木道は、水に強く腐りにくいという事で、カラマツ材を使用しています（群馬県、長野県産を使用）。

2011年7月5日
胸高直径　95cm
樹高　25～30m
樹齢　約193年

▲川上川沿いの天然カラマツが倒れる

雪害と集中豪雨

5月中旬、尾瀬ヶ原を中心に各方面の登山道や残雪状況をビジターセンター職員が巡視、点検を行っていた所、見晴～富士見峠のルート（八木沢道）に架かる八木沢橋が雪の重みで傾いているのを発見し、危険なため6月23日まで通行止めとなりました。

▲雪の重みで傾いた八木沢橋

7月下旬、4日間で400mm降るという集中豪雨が尾瀬の周辺を襲い、車道を始め、登山道で数カ所の土砂崩れがあり、登山道が深く洗堀されました。

また、沢に架かる桟橋の流失、尾瀬ヶ原を中心とする木道や休憩テラスの流失など、甚大な被害を受けました。夏休みも重なり、各山小屋でも大勢の宿泊客がいらっしゃったので、一時は下山ができない孤立状態やルートを変更しての下山となりました。

山ノ鼻地区の各山小屋や、ビジターセンター職員が総動員して、一刻も早く入下山できるように桟橋の移動や木道の修復等、災害復旧に努めました。

また、尾瀬ヶ原でも各河川、沢水が氾濫して、湿原や池塘に泥水が入り、木道には流木等漂流物が大量に引っかかりました。池塘は泥水で茶色く濁り、清く澄んだ状態に戻るまで、2ヶ月以上かかりました。

尾瀬関係者による迅速な復旧作業が行われ、8月3日には仮復旧をし、尾瀬探勝者も入下山が可能となりました。

▲7月末の集中豪雨により流失した橋の復旧作業にあたる関係者

第1回冬期調査の実施

群馬県から尾瀬保護財団が受託管理している、山の鼻ビジターセンター及び公衆トイレ等の戸締まりは11月7日をもって完了していますが、その最終確認を中心に、12月5日～7日の2泊3日で第1回冬期調査を実施しました。

尾瀬ヶ原では、積雪が25㎝前後と、この時期にしては、意外と少なく感じました。竜宮の公衆トイレまで、木道、下ノ大堀川橋等の公共施設の点検と巡視をしました。池塘は凍り、ヤチヤナギや背の高いアブラガヤ等が霜と雪で白く輝いていました。山の鼻ビジターセンター、公衆トイレ、水源地などの施設には特に異常ありませんでした。

この時期の朝晩はマイナス10℃前後まで冷え込みます。

第2回冬期調査（主に除雪）は3月の中旬を予定しています。

▲冬期調査のため入山する財団職員

▲山の鼻ビジターセンター(右)と公衆トイレ(左)

環境学習ミニガイドツアー

昨年に引き続き、ビジターセンター周辺での自然観察を含む環境保全施設の見学ツアー（環境学習ミニガイドツアー）を行いました。

施設の見学ツアーについては、山ノ鼻地区の公衆トイレをメインに排水処理の仕組みや、汚泥処理の作業、また、環境を守るためには、多くの費用がかかることなど、環境の保護について説明を行いました。

▲合併処理浄化槽の説明を聞く参加者

開催は5月下旬～10月中旬までの毎日で、ビジターセンター周辺の群馬県施設、研究見本園及びその周辺で行いました。対象者は、家族連れなど少人数のグループ及び学校等の教育旅行団体を中心に、一回あたり一時間以内で実施しました。

山ノ鼻十二山神祭

山ノ鼻地区では周辺の山小屋と協力して、毎年、9月12日にこの行事が執り行われています。山小屋の主人やビジターセンター所長、一般登山者が玉串奉奠（ほうてん）を行い、お赤飯、お餅、味噌汁、お酒などを振る舞います。この時期に訪れる機会がありましたら、是非ご参加ください。

▲毎年9月12日に行われる「山ノ鼻十二山神祭」

現地情報

おこじょだより

尾瀬沼ビジターセンターより

環境省の委託を受けて、ビジターセンターの運営業務を実施し、去る11月2日に管理員全員無事に下山しました。

そこで、今シーズンを振り返り、いくつか報告します。

企画展示

主な、二つの企画について、担当の各管理員から報告します。

①「違いを知ろう」展

（開催：7月中旬～8月末）

尾瀬で見られるよく似た植物や動物に注目し、その違いについての紹介をしたほか、群馬県側と福島県側の木道のちょっとした違いについても紹介しました。

～ぬりえで違いを知ろう　など～

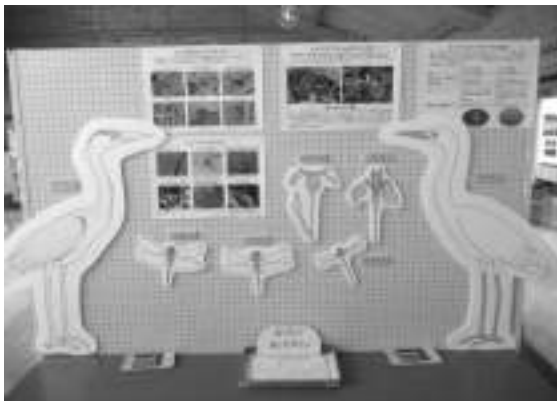
アヤメの仲間やトンボの仲間、サギの仲間を紹介。楽しくぬりえをしながら、色や模様の特徴を見比べてもらえる展示にしました。色の見本では、実物大のアオサギやダイサギのパネルなどを用意しました。

このぬりえに参加された方は、ぬりえのことを思い出しながら、実際の植物などを観察されていました。

実物に触れることで違いを知ってもらえるように、似ている樹木の木の葉や松ぼっくりの紹介では、公園外から採取してきた実物を展示し、葉の裏に生えた毛の感触などを体験してもらいました。

また、似ている植物等の写真を並べたことにより、その違いを再確認していただけたと思います。

尾瀬では動植物を採取することは出来ませんが、やさしく触って、肌で尾瀬を楽しんでください。（佐藤）



▲違いを知るためにぬりえコーナーを設置

～立体模型で違いを知ろう～

尾瀬沼周辺に生息している魚のうち、皆さんが目にする機会が多い3種類の魚（イワナ・ギンブナ・アブラハヤ）の違いを紹介しました。言葉では伝えにくいので、実物に似せた魚の立体模型を造りました。実物の魚や写真をじっくり観察して特徴をつかみ、ひれの部分や顔の表情の再現に苦戦しながらの模型作製となりました。ひれの違い、体の模様の違いを試行錯誤の末に完成した模型。確かめながら「へぇ～」と言われた時は大変うれしく思えました。（弥冨）

▲魚の立体模型(上からギンブナ、アブラハヤ、イワナ)

②「秋をじっくり見てみよう」展

（開催：9月上旬～10月中旬）

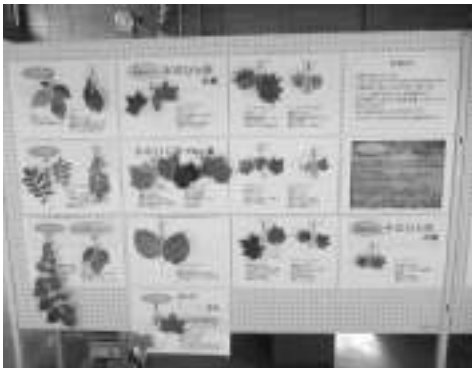
紅葉シーズンにあわせ、植物の紅葉・黄葉に注目し、葉が色づくしくみなどを紹介したほか、自然保護の取り組みなどについても紹介しました。

～紅葉する代表的な葉の紹介～

秋の見所は、赤や黄色とカラフルに色づく葉っぱです。紅葉というと、カエデ科の葉を思い浮かべる方が多いと思います。

しかし、紅葉にはカエデ科以外にもナナカマド、ブナ、ツタウルシ、カラマツなどを中心に、すべての葉が個性豊かに紅葉します。そこでそれらもカエデ科と併せて取り上げました。

展示では、公園外で採取した葉を押し葉にして、紅葉する葉の見分け方を紹介しました。（清原）



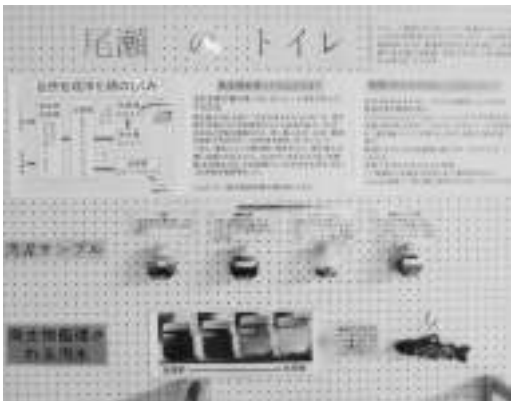
▲カエデ科などの紅葉する葉の紹介

～尾瀬のトイレの仕組み～

排泄物、それは入山者が唯一尾瀬

に残していけるものです。今回の展示では、尾瀬沼のトイレの仕組みを紹介しました。

入山者の排泄物が、車が入れない山の中で、尾瀬を汚さないようにどう処理されているのかを、汚泥の処理過程のサンプルを展示するなどして紹介しました。（山口）



▲尾瀬のトイレの仕組みについて紹介

企画プログラム

実施した二つのプログラムを報告します。

①星空観察会

周囲に街明かりがなく、星空の観察に適した尾瀬の夜空を活かした企画として実施しました。7月～9月の週末にスライドショーと組み合わせて実施することとしていましたが、なかなか星空に恵まれず、参加者と共に見上げることが出来たのは一回のみでした。しかしながら、その一回に参加された方は管理員の解説に耳を傾け、満点の星空に大変満足されていました。

▲ビジターセンター前で星空を観察する参加者

②植生復元解説

10月上旬の週末に過去の植生復元作業が行われていた沼尻地区において、過去の荒廃状況や植生復元作業時の写真を用意し、それと現在の状況を比較しながら解説を行いました。

このプログラムは、現在も尾瀬内で実施されている植生復元作業について、公園利用者に理解を深めていただき、自然保護への関心を持っていただくことや自然の貴重さを知っていただく良い機会となりました。

植生復元作業の代表として、アヤメ平が取り上げられることが多いですが、休憩箇所として利用者が多く滞留したことなどから、湿原が裸地化し、植生復元事業が行われることとなった沼尻地区についてはあまり知られていないことから注目し開催しました。

実際に解説終了後、参加者に感想などを伺うと、「ここで植生復元作業が実際に行われていたことは知らなかった」との声が寄せられました。

▲植生復元について、職員から解説を聞く参加者

心肺蘇生法、AED、そして蘇生

ご存じの通り尾瀬国立公園内には医療機関はありません。また、一旦入山してしまうと救急車が進入出来る車道まで戻るには時間がかかります。

そのため、万が一怪我などされた場合には、遭難対策救助隊などにより出来る限りの措置（応急措置）を行い、早急に医療機関に引き継ぐことが必要とされ、防災ヘリでの搬送が行われることが多々あります。

しかしながら、症状によっては防災ヘリが到着するまでの対応が重要となります。

今シーズンも一件、心肺蘇生法とAED（自動体外式除細動器）が必要とされた事象が発生しました。ビジターセンターへの通報が早く、幸いにも近くに医療関係者がいて協力を得られたことなどから、蘇生し、防災ヘリにて医療機関に搬送され、無事退院されました。

くれぐれも日々の健康管理に留意し、尾瀬の地理的環境を考慮し無理な入山は避けましょう。

▲尾瀬沼ビジターセンターに設置されているAED

■連載コラム　認定ガイドがススメる とっておきの尾瀬

その9　多くの人に尾瀬の魅力を伝えたい　〈星昭秀（尾瀬自然ガイド）〉

（会津高原リゾート　Tel 0241-78-3055　URL http://www.takatsue.jp/）

A1　尾瀬が始めての方にも、何度も来ている方にも、ぜひ試していただきたい事があります。まず「ゆっくり歩いてみましょう」足もとの木道のそばに花が咲いています。耳を澄ませば鳥の鳴き声が聞こえてきます。顔を上げれば、遠くに池塘や燧ヶ岳、至仏山が見えるかもしれません。木漏れ日の森では葉っぱがとてもきれいです。写真を撮ったり花の名前を調べたり・・・。疲れませんし楽しいです。いつもと違う尾瀬が見えてくるはずです。歩くペースは地図に書かれたコースタイムの1.5倍くらいが良いでしょう。

A2　私は6月下旬をお薦めします。人が少なく花の種類が多いことが理由です。また、7月下旬の会津駒ヶ岳のハクサンコザクラや田代山のキンコウカもお薦めです。10月中旬の燧裏林道のブナの黄葉は、息を飲むくらい見事な色合いを見せてくれます。

A3　忘れやすい物やあると便利な物がいくつかあります。簡易なポンチョをお持ちになっても雨具のズボンやザックカバーはあった方が便利です。ザックカバーはビニール風呂敷でも代用できますが、やはり専用の物を使った方が安心感があります。ザックの中身はビニール袋に小分けで入れると濡れません。尾瀬はごみ持ち帰りをお願いしていますからビニール袋は必携ですよね。

A4　ご家族をガイドした時のことですが、3名が60歳前後の女性、1名は90歳の女性でした。90歳の方からは、最近高尾山を下から歩いて登ったという話をお聞きし、大丈夫でしょうとOKしました。一緒に歩いて驚いたのは、歯は全部自前、記憶力は確かでお話もスムーズ、尾瀬の花も半分近くご存知というスーパーお婆ちゃんだった事です。沼山峠～三平下の往復8.6kmを完歩されましたが、来年は91歳で尾瀬ハイキングに挑戦するそうです。

A5　参加者から、ガイドを依頼したことで尾瀬の見方が変わったと言われます。多くの方に尾瀬の魅力を知っていただきたいと思います。また、季節ごとに変わる風景や、湿原だけでなく魅力的な山もご紹介したいですね。そして風評被害には負けたくないですね！

その10　自分のスキルを向上させることもガイドの仕事　〈松田和昭（尾瀬自然・登山ガイド）〉

（ハッピーアウトドア　Tel 0278-64-2151　URL http://www.happy-snow.com/）

A1　ちょっと予習をしてから入山するのをオススメします。予定コースの距離・時間、見える景色や山の名前、尾瀬の成り立ちや自然現象、その時期の花の名前、聞こえてくる鳥の声は…などなど。どんな山小屋があって、その山小屋の歴史は？ 調べるほどに興味は増えます。花の名前が分かったら、次にその花の仲間は何か？ 尾瀬の自然の中ではどんな役割なのか、その花と昆虫との関係は？ 一度に全部調べるのは難しいかもしれませんが、尾瀬に来るたびに少しずつ憶えていけば、いつの間にか立派な尾瀬マスターです！

A2　私の好きな場所のひとつが白砂湿原です。特別なものが見られるわけではないのですが、なんとなくホッとできる場所です。尾瀬ヶ原からも尾瀬沼からも離れていて、人もあまり訪れません。山小屋からも離れ、山や森の中をずんずんと歩く。そして、ふっと白砂湿原に到着して休憩をする、そんなひと時が好きです。周囲を森に囲まれて箱庭のような雰囲気が気に入っています。

A3　木陰のない湿原では、とにかく日差しが強くて暑いので、私は夏季に麦わら帽子を愛用しています。どんな最新素材を使った高級な帽子にも、通気性では麦わら帽子にはかないません。ただし風に弱いので、その日の状況に応じて使っています。

A4　少人数のプライベートガイドが多いのですが、ご高齢のご両親に、息子さんがガイドツアーをプレゼントした事が印象に残っています。年齢的にも登山は最後かもしれない、歩けるうちに一度は行ってみたい。こうした方々をご案内し、ガイドとご家族が協力して無理なく楽しく下山できた時は最高に嬉しいです。ガイドという仕事は楽ではありませんが、明日への活力となっています。

A5　ガイドの仕事は日々、自分のスキルを向上させることも含まれています。自然の知識、安全管理力、応急手当、説明をする話術、気象、新しい装備、また自然配慮の行動。全ての技術・情報・知識は日々更新されています。常にそういう意識を持ち、自らを向上させることが私の抱負であり、目標ですね。

［ガイドさんへの質問］　Q1　尾瀬の楽しみ方、Q2　オススメの尾瀬スポット、Q3　尾瀬歩きに便利な道具・装備
Q4　思い出のエピソード、Q5　今後の抱負・目標

■連載コラム　認定ガイドがススメる とっておきの尾瀬

その11　尾瀬の水で入れたコーヒーを飲みながら、ゆっくり流れる時間を味わう　〈亘理健二（尾瀬自然ガイド）〉

（水上山岳ガイド協会　Tel 0278-72-2611）

A1　何倍も楽しく尾瀬を歩くなら、認定ガイドと一緒に行きましょう。見落としがちな花もしっかり説明します。例えば、鳩待峠から山ノ鼻の途中にひっそりと咲くイチヨウランも、参加者からは「初めて見た」「見落としていた」などの声が聞かれました。大半の人が見過ごしてしまう見つけにくい花もガイドが説明します。

A2　早朝の尾瀬です。季節・場所を問わず、早朝の尾瀬ヶ原はひんやりとした空気に包まれて、凛とした雰囲気があります。乳白色の霧がかかり、ゆるやかに明るくなりやがて太陽が顔を出す。こんな光景も朝だけのものです。早い朝食をとり、この雰囲気に包まれながらのんびり歩く。行き交う人も少なく本来の尾瀬ヶ原の風景です。この時間帯にすれちがう登山者はみんな優しい柔和な笑顔ですね。

A3　ちょっと重くなりますが携帯コンロです。尾瀬の水を水筒に入れ、上田代あたりのベンチでお湯を沸かしてコーヒーを淹れます。遠く広がる尾瀬ヶ原の向こうに燧ヶ岳や至仏山を眺め、やわらかく吹く風を感じながら飲むコーヒーは格別です。目を閉じると鳥のさえずりや沢の音が聞こえたり、動物の気配や花の香りも感じられるかもしれません。尾瀬の水で作ったコーヒーを飲みながら、ゆっくり流れる時間を味わうのが至福の時です。

A4　小学校5年生をガイドした時に「植物の名前を覚えることも大切ですが、もっと大事なことは尾瀬ヶ原を歩いて楽しかったと思う気持ちです」と話しました。ガイド終了時に感想を聞くと、数人の子から「歩くのが楽しかった」「歩くってこんなに気持ち良いんだとわかった」と言われ、ガイド冥利につきました。歩くことの楽しさを覚えれば、自然に対する興味もどんどんわいてきます。その時はもう一度いっしょに歩ければ最高ですね。

A5　いつも「本当に尾瀬を見ているんだろうか?」という気持ちを忘れないようにしています。どんな形の葉か? 樹齢は? どんな実がつくのか? よく見るといろいろなものが感じられ、興味がわいてきます。センス・オブ・ワンダーの感性を忘れないように尾瀬ガイドを続けたいと思います。

その12　尾瀬の声を聞く　〈桂田直樹（尾瀬自然・登山ガイド）〉

（尾瀬ハイキングガイド　Tel 0278-58-4824　URL http://www.oze-hike.com/）

A1　尾瀬は動植物が多く独特な環境を持っているので、良く知っている人と歩く事で何十倍も楽しくなります。例えば、白い綺麗な花を写真に撮るだけでなく、その花の事をもっと知りたいでしょうし、そもそも花を見落す可能性もあります。また、山小屋に泊まることで、夕闇に包まれる尾瀬の風景や、真夜中の星と獣の気配、朝靄に覆われた景色といった日帰りでは見られない風景があります。そんなわけで、認定ガイドと一緒に山小屋泊で歩く事が、尾瀬を楽しむ方法と考えています。

A2　至仏山に登ってみましょう。季節は7～8月。鳩待峠から至仏山の往復は6～7時間です。雪が解けた山肌には多くの高山植物が咲きほこり、珍しい花々が癒してくれる事は間違いありません。眼下に広がる尾瀬ヶ原の風景も至仏山登山の楽しみでしょう。同じ尾瀬でも違った世界です。

A3　尾瀬に限らずトレッキングにはカッパが必需品です。雨でも楽しめる事はたくさんあります。傘は持っている事に気を取られて、せっかくの景色や音がわからない事もあり、こんなにもったいない事はありません。寒いときは防寒着としても役立ちます。さらに荷物をビニール袋に入れてザックにしまいましょう。ザックカバーがあれば別ですが、大切なお弁当やお財布を雨から防いでくれますので、気にせず歩く事が出来ます。この準備だけで、雨の憂鬱や不安も楽しみに変える事が出来ます

A4　愛媛の老舗鰹節屋さんご一家をガイドした事です。おばあさまが「尾瀬に行ってみたい」というので、みんなで尾瀬に来られました。鳩待峠から牛首を往復するコースでしたが、景色や気候、見た物、聞いた音、全てに感嘆の声を発せられていました。鳩待峠への上り道は辛かったようなので、家族みんなで電車ごっこをしながら歩きました。4世代家族の絆を見せて頂いた気がしました。

A5　ガイドはお客様と自然の間に立ち、お互いの声を伝える事が役割だと考えております。そのためにも日々勉強したいと思っています。動植物の名前だけでなく、その由来や特徴などを理解し、分かりやすく伝えたいと思います。名前は人間がつけたものですから名前を使わずに説明出来たら素晴らしいと考えています。また、尾瀬の声が聞けるように体の感覚を研ぎ澄ませ、自然の喜怒哀楽を自分なりにお伝えできればと思っています。

■連載コラム　『内海さんの思いをつなぐ』

尾瀬から学ぶスローライフ　取材協力＝奥利根自然センター再開委員会

みなかみ町にある奥利根自然センターは内海廣重氏によって1997年に設立されました。奥利根と尾瀬をフィールドとして、この地域の共通認識を持った活動を展開されてきましたが、内海さんが2009年11月に他界され、その遺志の継続と、奥利根自然センターの活用方法について、委員会による検討が行われています。その経緯と検討状況について、親交が深かった飯塚忠志さんにお話を伺いました。

奥利根自然センター設立の経緯

尾瀬の自然保護活動を展開してきた民間団体・尾瀬の自然を守る会が平成8年12月8日に解散し、この事務局長だった内海さんは、次の活動として尾瀬の賢い利用方法を日頃から考えるために、地元での活動と発信が課題と考えていました。内海さんは、尾瀬を守るためには、尾瀬周辺のことを学ばなければいけないと。奥利根地域の環境保護も大切で、尾瀬保護活動に限らず、奥利根地域の調査研究・啓発・現地観察会などの活動を行い、この地域のことを知ってもらい、尾瀬の賢い利用と保護について、専門的な知識を持った人達の育成に心血を注いでいました。

▲みなかみ町にある「奥利根自然センター」

▲センターの10周年を記念して建てられた記念碑
地元の自然石を使って造られている

貴重な収蔵物

内海さんが若い頃から尾瀬を歩いて集積した資料や新聞記事。また、自然保護に関する資料や、内海さんが世界の国立公園（アメリカ、ロシア、南アフリカなど）を歩かれた各地の記録やデータが保存されています。この他にも色々な書籍やスライドがあり、中には昔の講演会を録音した貴重なテープがあります。

再開委員会の発足経緯

内海さんがお亡くなりになり、残念ながら地域で蓄積されてきた人と人との繋がりが薄くなってきました。しかし、地元からの発信と課題の提供を止めるわけにはいきません。内海さんが亡くなって10ヶ月が経過した9月に、東京で偲ぶ会を執り行い、内海さんの功績や人柄を偲ぶだけではなく、尾瀬と奥利根地域の保護と利用について内海さんが続けられてきた活動の継承と継続について呼びかけました。内海さんの代わりはできないが、そういう気持ちでやろうと。この呼びかけで、再開を目指す活動に賛同するかつての「守る会」メンバー他11名の方が名乗っていただき、奥利根自然センター再開委員会を結成しました。現在は月1回を目安に会議を行っています。議題として、内海さんがやってきた活動の継続。社会への問題提起と話題提供。内海さんが残した様々な文献や資料の整理と公開があります。

飯塚さんにとって内海さんとは

行動力と正義感が強く、常に感銘を受ける方でした。また、尾瀬を守る情熱のある人材の育成に努めていました。

最後になりましたが、来年の3月頃に、再開委員会の取組みと、尾瀬・奥利根地域に関するイベントを開催する予定です。内容については近日中にお知らせできると思いますので、是非ご参加いただけたらと思います。

▲お話を伺った再開委員の飯塚さん

○奥利根自然センター再開委員会
委員長＝横山隆一
委員＝安類智仁、飯塚忠志
児玉芳郎、小鮒守
杉原勇逸、鈴木利博
武繁春、長浜陽介
平井敬治、八木幸市（50音順）

エッセイ 尾瀬好日

「今シーズンの尾瀬を振り返って」

檜枝岐村観光協会理事
星　菊芳

２年ぶりの小屋開けとなった２０１１年は、さまざまな思いの小屋開けとなりました。

２０１０年は、中心になって小屋をきりもりする妻が病に倒れ、山小屋を休業する決断をせざるを得ませんでした。お陰様で妻の症状も順調に回復し、例年通りの春の入山、小屋開けをすることができました。関係者の皆様はじめ、多くの方々にご迷惑、ご不便をお掛けいたしました。この場をお借りして、御礼申し上げます。

尾瀬全体では、３月11日の東日本大震災による風評被害、７月末の新潟県と福島県を襲った集中豪雨により、尾瀬のメイン道路である鳩待峠が、土砂崩れの為数日間の全面通行止や、尾瀬ヶ原の木道が一部流され通行出来ない場所がありましたが、早期の復旧工事により、短期間で通行出来るようになったのは入山者に朗報でした。

又、９月には２回の台風が襲来し追い打ちをかけました。今年尾瀬に行く計画を立てられた方々には予定を変更せざるを得ない事態が度々あり、もどかしかった事と思います。

尾瀬国立公園の土地の４割を所有する東京電力の土地売却（尾瀬管理「肩代わり」）問題まで起こり関係者の我々には驚くような話が流れましたが、今までの保護活動に感謝すると共に、今後も継続して頂きたいと思います。

小屋の営業を振り返ると、営業を再開し多くのお客様に山小屋を訪れて頂き、あたたかい言葉をたくさん頂戴し、感謝や励みになったシーズンでした。小さな子供達も居て毎日が慌ただしい中で、毎年小屋を支えてくれるスタッフも心強い存在でした。

２、３年前から山ガールと言われる若い女性が尾瀬にも多く訪れるようになりましたが、今シーズン宿泊されたお客様の割合は20代後半から40代位のカップルが約７～８割と、圧倒的に若い世代が多かった一年でした。これは尾瀬に限らずどこの山でも同じような傾向にあったのではないかと思います。この若い世代が一時のブームに終わる事のないようになってほしいものです。

私が尾瀬に入るようになって40数年が経ちましたが、当時は水芭蕉、日光キスゲ、紅葉の３シーズンは、１畳に２人の雑寝の状態で、お客様にご不便をお掛けしましたが、今は２人でも１部屋と、宿泊状況はだいぶ変わってきました。利便性と山小屋のあり方はこれからも大きな課題のひとつだと感じています。

この貴重な尾瀬のすばらしさは、時代が変化しても大きく変わることなく、いつまでもこの自然を残す為に、みんなで保護し、世界中のみんなが雄大な尾瀬の自然に感動できれば、尾瀬国立公園としての役割は充分果たせるのであろうと思います。

▲見晴地区に建つ「原の小屋」

▲今シーズンのスタッフと小屋関係者
筆者は左から８人目

エッセイ
尾瀬好日

尾瀬ボランティア
野口　義夫（No.507）

「自然豊かで不思議にあふれた尾瀬」

２０１１年の尾瀬は、たくさんの傷手を負ってしまって、私にはとても耐えられないような風に見えてしかたなかった。３月11日の東日本大震災と福島原子力発電所のメルトダウンによるさまざまな影響、台風と豪雨のもたらした大きな被害、ニホンジカによる食害のひろがり…。随所に見られたブルーシートや土石流、枯枝の堆積、倒木、川の流れの変化など景観の変わった姿に、何度か立ちどまってしまった。

尾瀬の成り立ちから見れば、自然災害とはくりかえし遭遇し、そのたびに自らを変えながらも再生しつづけて、今の景観や生態系をつくりあげて来たのだから、その回復力を信頼したいと思う。それにしても私にとってはかつてない辛い体験であった。

私が尾瀬保護財団のボランティア活動に加えていただいたのは１９９６年春なので、もう15年になる。少年時に学校の先生に連れられて何度か尾瀬沼畔やアヤメ平で遊びまわり、今から思えば湿原を荒した悔いと、僅かな登山経験を生かしたリタイア後の生き方の一つとして、ボランティア公募に手をあげたのがきっかけであった。

入山口啓発と清掃、それを通じた入山者の方々との交流は、とてもさわやかな体験であった。財団の活動の充実と発展の中で、「お話ボランティア」、「自然解説ガイド」と私も成長させてもらった。尾瀬の自然の豊かさと不思議さの奥深い世界は、いつの間にか私のふるさとのようにも思えてならないまでになっている。国立公園になった尾瀬は、とうとう私を「自然ガイド」におしあげてしまった。教育力にも優れた尾瀬におどろいている。

ここ数年、年15～17回・延べ日数24～26日入山している。85％ほどはガイド活動なのでボランティア活動が少なくなって、尾瀬に申し訳ないような気持になる。ガイド活動の前後のゴミ拾いや自然解説などを「自主ボランティア」と、自分を納得させているのが現状だ。

今年も、尾瀬は自然災害の傷あとや所有をめぐる懸念などを負ったまま、でも豊かで不思議にあふれた自然を、さわやかにけなげにきれいに生きつづけていくと思う。

▲自然豊かで不思議にあふれた尾瀬

▲ボランティア総会で議長を務める筆者
(H22.2.13　筆者は右端)

エッセイ
尾瀬好日

「郷土の自然とともに」

尾瀬ボランティア
野村　冬樹（No.940）

「はるかな尾瀬」は私にとって、高校時代に夏合宿で初めて訪ねた尾瀬の風景だったのかも知れません。花々に迎えられて辿り着いた至仏山頂からの尾瀬ヶ原の絶景と、彼方に聳（そび）える燧ヶ岳の雄姿は、その後の人生を大きく方向付けました。生き物や自然に関わる仕事をしたくなった私は、生まれ育った群馬を離れて県外の大学に進学して以降、気がつくと動物を探して山々を歩き回っていました。

そして、縁あって19年ぶりに故郷に帰ることになり、「さて、何をしようか…」と考えた時、真っ先に浮かんで来たのが、あの「はるかな尾瀬」の風景だったのです。そんな折、財団や尾瀬ボランティアのことを知り、6月の研修に参加させて頂きました。山歩きが好きな私は、早速7月の田代・帝釈山、8月の会津駒ヶ岳の清掃登山に参加しました。いずれの山行も新しい仲間達と心地良い汗を流し、ついでに山も綺麗になることに新鮮な喜びを覚えました。

そして10月、24年の時を経て40歳になった私に、再び至仏山に登る日が来ました。しかも、当時下山した東面登山道の植生を復元するために！

これは長年の登山者の影響で露出した山肌の土をネットで覆う試みで、中腹の現場に到着すると、なるほど登山道脇の斜面の植生が消失し、巨大な裸地が出来ていました。寒さが厳しく風も強いこの場所で、まずは土が定着する方法を模索し、それから苗を植えて元の植生に戻るには、相当な年数が必要とのこと。きっと自分が生きている間にそれを目に出来るかどうか、微妙なんだろうな…

そんなことを考えながら作業を行い、下山し始めると、木道上に登りに見かけなかった真新しいキツネの糞が！

この日は他にも何組か登山者がいましたが、我々が上で作業している間、キツネが木道を歩いていたのです。つまり、ここでは彼らの生活を妨害せずに人間が山を歩けていることになり、そう考えると何故か感慨深いものがありました。そう言えば昨夜ビジターセンターで見たスライドには、真っ昼間に木道に出てきたテンの写真もあったっけ…

そういう肉食系の動物達は、人間を避けて夜に餌を探し回ることが多い、という通説はあるものの、尾瀬はそれが当てはまらない場所なのかも知れません。そんな楽園のような尾瀬にも近年はシカが侵入し、湿原を踏みつけたり植物を食い荒らす問題も生じているとのこと。きっと私が留守にしていた長い歳月の間に、郷土の自然も少しづつその表情を変えてきたのでしょう。これからは、そんな郷土の自然を見つめながら共に歳を重ね、あの至仏山の裸地が元の植生に戻るのを見届けたい…

初年度の活動に参加して、そんなふうに感じています。

▲至仏山植生復元ボランティア活動時の写真
（H23.10.2　筆者は右端）

尾瀬ボランティア情報

このコーナーは尾瀬ボランティアに登録されている方のためのページです。

●群馬県総合表彰の受賞について●

長年にわたり公共の福祉に尽力された方々を表彰する群馬県総合表彰を、尾瀬ボランティアの登坂重夫さん（No．179）が受賞されました。環境分野、とりわけ、長年の尾瀬ボランティアでの積極的な活動が評価されての受賞となりました。本当におめでとうございました。今後も、尾瀬ボランティアの活動が、より充実したものになるように全力で支援させていただきたいと考えています。

●第16回尾瀬ボランティア総会の開催について（速報）●

今年度開催の第16回尾瀬ボランティア総会の日程と会場が決まりました。詳細については、改めてご案内します。

・開　催　日／平成24年3月3日（土）
・開催場所／埼玉会館　ラウンジヒマワリ

職員紹介

2011シーズンにビジターセンターで活躍した職員および事務局に加わった職員を紹介します

【山の鼻ビジターセンター】

笹原　宗利（ささはら　むねとし）

宝珠山　恭子（ほうしゅやま　きょうこ）

石田　義則（いしだ　よしのり）

落合　清勝（おちあい　きよかつ）

秋山　恵美子（あきやま　えみこ）

西口　俊一（にしぐち　しゅんいち）

白石　希（しろいし　のぞみ）

萩原　岳史（はぎわら　たけし）

佐々木　彩乃（ささき　あきの）

遠藤　健太（えんどう　けんた）

齋藤　仁美（さいとう　ひとみ）

【尾瀬沼ビジターセンター】

渡辺　健一（わたなべ　けんいち）

桜澤　仁（さくらざわ　ひとし）

島野　卓生（しまの　たくお）

佐藤　美幸（さとう　みゆき）

弥冨　昭子（いやどみ　あきこ）

山口　徹（やまぐち　とおる）

清原　香菜子（きよはら　かなこ）

【事務局】

友松　浩二（ともまつ　こうじ）

○尾瀬フォーラムin尾瀬沼を開催しました

平成23年9月8日から9日の2日間にわたり、尾瀬フォーラムin尾瀬沼を開催しました。

第1日目は、尾瀬沼ビジターセンターレクチャールームを会場とし、「みんなでゆっくり楽しむ尾瀬～エコツアーの観点から～」と題して、東京大学大学院の伊藤弘先生からご講演いただきました。続いて「これからの尾瀬を考える」をテーマに、尾瀬の近況報告と、参加者の皆様との意見交換を行いました。

第2日目は、3班に分かれて、尾瀬認定ガイドによる自然観察会を尾瀬沼周辺で実施しました。

天候にも恵まれ、尾瀬のこれからを共に考える良い機会になったと思います。ご参加いただいた皆様、ありがとうございました。

▲尾瀬フォーラム会場風景

○尾瀬ガイダンスを開催しました

尾瀬の利活用について理解を深めていただくために、尾瀬保護財団と日本旅行業協会の共催で尾瀬ツアーを企画している旅行会社や出版社を対象に、平成23年12月5日（月）に尾瀬ガイダンスを開催しました。

ガイダンスでは、今年10月に群馬県が主体となって実施した「尾瀬らしい自動車利用社会実験」の説明を含めた尾瀬国立公園のバスアプローチの仕方や、ガイドツアーの満足度を上げる取り組みを紹介。また、来シーズンの尾瀬のトピックスについても紹介しました。

▲尾瀬ガイダンス会場風景

○2011年尾瀬保護財団の活動等

1月24日　企画運営委員会開催
2月11日　平成22年度尾瀬賞運営委員会開催
12日　尾瀬自然解説ガイド会議開催
19・20日　NHK「わたしの尾瀬」写真展〈大阪展〉〈関西方面で初めての写真展〉にてスライドレクチャー実施
21日　NHK「わたしの尾瀬」写真展〈大阪展〉にてスライドレクチャー実施及び尾瀬カイダンス開催
26・27日　NHK「わたしの尾瀬」写真展〈大阪展〉にてスライドレクチャー実施
3月1日　「大清水はみんなの宝」報告会開催
5日　尾瀬ボランティア総会開催
8～10日　平成22年度第2回冬期調査実施
10日　尾瀬・魚沼ルート活性化協議会、湯之谷温泉郷・尾瀬ルート活性化委員会へ講師派遣
25～27日　エコツアーガイド養成講習会ｉｎ飛騨市へ講師派遣
4月20日　至仏山残雪期調査実施
23日　至仏山誘導ボール設置作業実施
26日　至仏山誘導ボール設置作業実施
27・28日　クラブツーリズム「初めての尾瀬教室」へ講師派遣
29日　至仏山誘導ボール点検作業実施
29～5月1日　クマ定点観察調査実施
30～5月1日　フィールド講座「尾瀬ケ原ネイチャースキー・ハイキング①」開催
5月3日　至仏山誘導ボール点検作業実施
4～5日　フィールド講座「尾瀬ケ原ネイチャースキー・ハイキング②」開催
6・7日　クラブツーリズム「初めての尾瀬教室」へ講師派遣
8日　至仏山誘導ボール回収作業実施
11日　群馬県立女子大学「ボランティアの基礎」へ講師派遣
14日　尾瀬の自然保護を考える会へ講師派遣
15日　山の鼻ビジターセンター開所式
24日　さいたま市立内谷中学校へ講師派遣
28日　ＪＥＮＥＳＹＳメコン観光振興エコツーリズムプログラムへ講師派遣
6月4日　ごみ持ち帰り運動実施
4～5日　エコライフフェア２０１１へ出展
7～8日　現地にて尾瀬ガイダンス開催
18～19日　尾瀬ボランティア講座開催
24日　ツキノワグマ対策協議会開催
26日　至仏山東面登山道整備（柵立て）実施
27日　高崎経済大学へ講師派遣
28日　至仏山登山道除雪作業実施
7月2～3日　フィールド講座「尾瀬の野鳥ウォッチング」開催
9～10日　フィールド講座「至仏山の自然を科学する」開催
11日　ぐんまちゃん家のふるさと講座へ講師派遣
13日　「がんばろう福島」応援ツアー
21日　千葉県立国府台高等学校へ講師派遣（事前学習）
25～27日　千葉県立国府台高等学校へ講師派遣（現地ガイド）
8月6～7日　フィールド講座「池塘の不思議をさぐる」開催
13日　ＮＨＫ「わたしの尾瀬」写真展〈柏崎展〉にてスライドレクチャー実施
23～24日　千葉県立国府台高等学校へ講師派遣（事後学習）
26・27・29日　クラブツーリズム「初めての尾瀬教室」へ講師派遣
27～28日　フィールド講座「尾瀬アニマルウォッチング」開催
30～31日　大清水ワークショップ開催
9月4日　ＮＨＫ「わたしの尾瀬」写真展〈名古屋展〉にてスライドレクチャー実施
8～9日　尾瀬フォーラムｉｎ尾瀬沼開催
17～18日　フィールド講座「尾瀬地学入門～戸倉沢層・根羽沢編～」開催
18日　平成23年度尾瀬賞運営委員会開催
19日　至仏山植生復元定点撮影作業実施
25日　（社）ガールスカウト日本連盟群馬県支部へ講師派遣
10月1～2日　フィールド講座「尾瀬湿原復元45年の歩み」開催
1～2日　ＪＡＴＡ旅博２０１１へ出展
2日　第13回ぐんま環境森林フェスティバルへ出展
4日　至仏山植生復元作業実施
23日　至仏山東面登山道整備（柵外し）実施
23日　平成23年度尾瀬賞選考委員会開催
11月15日　（社）日本山岳ガイド協会へ講師派遣
19～20日　日本勤労者山岳連盟自然保護委員会へ講師派遣
12月3日　尾瀬ネイチャーガイドの会へ講師派遣
5日　尾瀬ガイダンス開催
5～7日　平成23年度第1回冬期調査実施
16日　ＮＨＫ「わたしの尾瀬」写真展〈高崎展〉にてスライドレクチャー実施
19日　ツキノワグマ対策員打ち合わせ議開催
25日　平成23年度尾瀬賞選考委員会開催

寄付のお願い

尾瀬保護財団では広く寄付をお願いしております。

当財団は、尾瀬において、利用者に対し自然への理解を深めるための解説活動や、適正な利用に関する普及啓発を実施するとともに、各種の環境保全対策や施設の管理運営等を実施し、尾瀬の優れた自然環境の保全に寄与したいと思っております。

◆個人住民税の寄付金控除の対象に尾瀬保護財団が指定されました。

個人住民税の寄付金税制の拡充により、各都道府県・市区町村が条例で指定した法人に対する寄付が、住民税の控除対象となるようになりました。尾瀬保護財団は下記の県・市・町から指定を受けています。（財団への寄付を行った翌年１月１日にこれらの県・市・町にお住まいの個人が対象となります。）

福島県、群馬県にお住まいの寄付者 ： 個人県民税
福島県富岡町、群馬県前橋市、群馬県高崎市、群馬県桐生市にお住まいの方 ： 個人県民税と個人市民税・町民税

◆また、尾瀬保護財団は「特定公益増進法人」に指定されており、当財団への寄付は所得税・法人税の優遇措置を受けることができます。
※なお、所得税、住民税控除の対象となる方には、領収書の送付時にご案内資料等をお送りしております。

◆企業・団体の皆様とより良いパートナーシップを築けるよう、下記の制度があります。

種　類	条　件	特　典
特別協賛寄付	３年に渡る毎年30万円以上の寄付、または一時の100万円以上の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称、ロゴマーク、メッセージを１年間掲載 ②尾瀬国立公園ロゴマークの取扱要領に基づき使用申請ができ、許可後は無償で１年間使用
協賛寄付	３年に渡る毎年10万円以上30万円未満の寄付、または一時の30万円以上100万円未満の寄付	①財団機関誌、財団ホームページに企業等名称を１年間掲載

■寄付につきましては、財団事務局（群馬県庁17階・027-220-4431）にご来訪いただくか、財団にご連絡の上、下記口座にお振込をお願いいたします。

福島県	東邦銀行県庁支店	普通	1078095
	福島銀行本店営業部	普通	0590088
	大東銀行福島支店	普通	1287138
群馬県	群馬銀行県庁支店	普通	0515428
	東和銀行本店営業部	普通	0975531

新潟県	第四銀行県庁支店	普通	1182791
	北越銀行県庁支店	普通	0199366
	大光銀行新潟支店	普通	0837334

特別協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

尾瀬紀行　尾瀬紀行（信託ファンド）で収受した信託報酬の一部として総額631万円余りをご寄付いただきました。平成19年より今回が５回目のご寄付となります。　（通算寄付総額　34,773,077円）

2011年11月４日寄付

株式会社第四銀行　今年度は64万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　4,037,045円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるため、今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。第四銀行はこれからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

2011年11月４日寄付

新潟証券株式会社　今年度は17万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　1,378,504円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けるために今回の寄付金が有効に活用されることを期待しております。新潟証券は第四銀行グループとして、これからも尾瀬の自然環境保護を支援すると共に、地域社会の発展に貢献してまいります。

2011年６月13日寄付

株式会社群馬銀行　今年度は109万円余りをご寄付いただきました。（財団設立当初からの寄付を含め、通算寄付総額　24,239,008円）
寄付者からのメッセージ：信託報酬の一部が尾瀬保護財団への寄付となる仕組みの投資信託を取扱っており、多くのお客さまの善意の集大成を寄付させて頂きました。趣旨にご賛同頂き投資信託をご購入頂いた全てのお客さまに深く感謝いたします。

2011年６月10日寄付

株式会社東邦銀行　今年度は123万円余りをご寄付いただきました。　（通算寄付総額　5,834,381円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の自然環境を後世まで末永く守り続けることを目的として、当ファンドの販売・運用を通じて地域社会の発展に貢献するとともに、広く尾瀬の自然を愛する皆様と共に力を尽くしていく所存であります。今後とも積極的にＣＳＲ（企業の社会的責任）を重視して取組んで参ります。

2011年６月13日寄付

ＤＩＡＭアセットマネジメント株式会社　今年度は315万円余りをご寄付いただきました。（通算寄付総額　17,386,539円）
寄付者からのメッセージ：尾瀬の美しく貴重な自然を後世に受け継ぐために今回の寄付金が有効に活用され、環境保全の一助となることを期待しております。DIAMはこれからも金融の仕組みを通じて、社会に貢献する資産運用会社を目指します。

2011年2月25日寄付

ベイシアグループ　ベイシアグループ様より638万円余りをご寄付いただきました。ベイシアグループ様では、グリーン家電エコポイント及び住宅エコポイントの交換商品として商品券を提供しており、商品券交換金額の一定割合を、環境保全等を行っている団体等に寄付する制度のもとにご寄付いただいたものです。（通算寄付総額　8,348,847円）
寄付者からのメッセージ：ベイシアグループは、「地域共生」を理念に自然環境保護にも積極的に取り組んでいます。今回の環境寄付に当たっては、当グループ発祥の地である群馬をはじめ、出店エリアの福島、新潟、栃木に広がる貴重な自然「尾瀬国立公園」の環境保全と適正利用を推進している尾瀬保護財団を選定させていただきました。群馬県が誇る豊かで美しい自然が、いつまでも多くの人々に楽しんでいただけることを、心より期待いたします。

2011年2月7日寄付

株式会社コメリ　コメリ緑資金の会様より50万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、ホームセンターを展開している株式会社コメリ様が、利益の１％を緑の育成の為に社会還元する目的で設立されたコメリ緑資金様より助成金としていただいたものです。今回で２回目のご寄付になり、本年度もご寄付いただくことになっています。　（通算寄付総額　1,000,000円）
寄付者からのメッセージ：「コメリ緑資金の会」は、日頃お世話になっている出店地域が美しい花や緑に囲まれ豊かであって欲しいと願い、平成２年より利益の１％を原資に助成活動を行なっています。尾瀬のかけがえのない自然遺産が、未来につながる次世代の子どもたちへと永遠に引き継がれることを願っています。

2011年１月13日寄付

アサヒビール株式会社群馬支社　47都道府県において、アサヒスーパードライ缶、ビン１本あたり１円を各都道府県の売上に応じて、環境関連等の団体に寄付するもので、平成22年春のキャンペーンに続く第４弾キャンペーンにより565万円余のご寄付をいただきました。　（通算寄付総額　20,377,574円）
寄付者からのメッセージ：アサヒビール(株)群馬支社では、地域との共生や地域貢献を目標に掲げ、2009年春より、アサヒスーパードライ「うまい！を明日へ！プロジェクト“尾瀬の環境保全活動”」をスタート。売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただいています。より多くの県民の皆様に主旨を知っていただき、また、賛同いただくことで、県民の皆様とともに群馬県の環境保全を進めていきたいと考えています。群馬県の子供たちの未来のために、お役立ていただけたら幸いです。

2010年７月６日寄付

エース株式会社　エース株式会社様より30万円のご寄付をいただきました。このご寄付は、2010年夏より全国で販売している「アウトドアスポーツ」ブランドの売上の一部をご寄付いただいたものです。今回で２回目の寄付になり、来年度もご寄付いただくことになっています。　（通算寄付総額　600,000円）
寄付者からのメッセージ：バッグ&ラゲージメーカーのエース株式会社は、尾瀬の貴重な自然環境を守る環境保護活動に協力させていただきたいとの思いから、スポーツバッグブランド「アウトドアスポーツ」の商品売上の一部を尾瀬保護財団へ寄付させていただきました。今後も多くの人々が尾瀬の美しい自然を楽しみ、その自然遺産が後生まで守り続けられることを心より願っております。

協賛寄付者のご紹介

※寄付日順、敬称略

株式会社ＫＤＤＩ
2011年７月29日寄付
尾瀬の自然環境保護のため、84万円余りをご寄付いただきました。これは、群馬県内のauショップで新規契約または機種変更によるau携帯の売上の一部をご寄付いただいたものです。　（初回寄付）

株式会社福島銀行
2011年７月21日寄付
尾瀬の自然環境保護のため、50万円をご寄付いただきました。これは、販売されているエコ定期の残高の0.01％相当額をご寄付いただいたものです。　通算寄付総額（8,080,000円）

水上高原ホテル200
2011年５月27日寄付
水上より坤六峠を越えて尾瀬に入るツアーを実施しており、その収益の一部を尾瀬の自然環境保護の一助となるようにと、30万円をご寄付いただきました。　通算寄付総額（540,000円）

社団法人茶道裏千家淡交会群馬県支部
2010年９月17日寄付
社団法人茶道裏千家淡交会　第43回関東地区大会の大会決議に基づき、尾瀬の自然保護のため役立ててほしいと、50万円をご寄付いただきました。　（初回寄付）

その他の寄付者のご紹介

※五十音順、敬称略

今井隆一、関越交通株式会社、公孫会北魚支部、株式会社ニチネン

イベント情報 ◆◆◆◆◆

第16回NHK「わたしの尾瀬」写真展

【前橋展】
○開催期間　平成24年１月17日（火）～23日（月）
午前９時～午後４時（17日は午後１時から、23日は正午まで）
○会　　場　群馬県庁１階県民ホール 南側（群馬県前橋市大手町１－１－１）
○そ の 他　入場無料

お詫びと訂正

前々号（vol.15）の裏表紙に印刷されたQRコードに誤りがあり、読み取ることが出来ませんでした。
謹んでお詫び申し上げます。

編集後記

東北地方太平洋沖地震の被害にあわれました皆さまに対して、心からお見舞い申し上げますとともに、一日も早い復旧をお祈り申し上げます。また、災害の犠牲となりお亡くなりになられた方々のご冥福をお祈り申し上げます。
今シーズンの尾瀬は、風評被害や集中豪雨など尾瀬関係者にとって試練の年でした。集中豪雨後の復旧作業では、関係者が一丸となり復旧作業を行う姿に尾瀬関係者の絆を見させていただきました。来シーズンが尾瀬関係者にとって良いシーズンとなるよう、微力ながらお役に立ちたいと思っています。（井）

尾瀬のミニ観察 ⑬

コオニユリの雄しべ

夏、湿原でコオニユリのオレンジ色の花が咲くと、キアゲハが訪れて蜜を吸い花粉を運ぶ。

雄しべは、ゆるい曲線を描いて花の下にのび出た花糸の先に、濃いオレンジ色の花粉を出す葯をＴ字形につけている。その葯はゆらゆらと揺れやすく、電気掃除機の吸い込み口のようだ。掃除機の吸い込み口が床に平らに接するのと同様に、葯はチョウの羽が触れたとき、ピタッと羽に接して、粘りの強い花粉をつける。私は「これはチョウ汚し機だ」と言っている。

（フラワーエコロジスト　田中　肇）

『友の会』コーナー

「友の会」は豊かな尾瀬の自然を守る財団の活動を支援してくださる方々の集まりです。

年会費

○個人会員	1口	2,000円
○ユース会員（３月31日現在満22歳以下）	1口	1,500円
○家族会員（個人会員と同居の家族）	1口	1,500円
○賛助会員（団体・法人）	1口	10,000円

☆友の会の会員期間は加入から1年です！

友の会の会員期間はご加入から１年間です。来シーズン尾瀬に行こうと考えられている方、いつ友の会に入られても、１年間フルに楽しんでいただけます。

★特典について

友の会に加入された方に次の特典をご提供させていただいております。

初回加入時：友の会会員バッチ進呈、各種資料送付
財団機関誌：年４回配布
宿泊割引：尾瀬戸倉、桧枝岐村周辺宿泊割引
（休日、祝祭日前等の除外日があります）
尾瀬周辺施設利用料割引等：対象施設等の詳細は、
尾瀬保護財団ホームページでご確認下さい。
※賛助会員の特典は財団機関誌の送付のみ

尾瀬保護財団
携帯サイト 情報配信中
緊急情報
お知らせ
ライブ映像
など
oze mobile

財団法人 尾瀬保護財団機関誌
2012.1　平成24年1月15日発行
発行所：財団法人 尾瀬保護財団

〒371-8570 群馬県前橋市大手町1-1-1　TEL.027-220-4431／FAX.027-220-4421
ホームページアドレス http://www.oze-fnd.or.jp
ツイッター http://www.twitter.com/oze-info　E-mail info@oze-fnd.or.jp